

第3学年 総合的な学習の時間 学習活動案

	対 象	授 業 者
第3学年1組	32名	
第3学年2組	32名	
第3学年3組	32名	
第3学年4組	31名	
第3学年5組	32名	

1 単元名：「発見！発展！！世田谷ものづくり」

- 1組：「広がれ！竹ワールド」
- 2組：「桜町ねぶたペーパーランド」
- 3組：「世田谷 Foodish プロジェクト」
- 4組：「目指せ！物作り職人！！」
- 5組：「さあ行こう 夜空を照らす光の世界へ」

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

地域にあるものや自然、場所などについて、触れたり調べたり、体験したりすることを通して、地域の魅力や地域で様々な活動をしている人の思いや願いについて理解し、自分たちの課題を解決したり、材の魅力を発信したりする方法を、すすんで考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p>	<p>探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。</p>
<p>①地域の人々の思いや願いによって地域のよさが続いてきていることに気付いている。</p> <p>②目的に応じて本やインターネット、インタビューなどを活用して必要な情報を適切に収集することができる。</p> <p>③身近な地域との触れ合いや調べ学習を通して、自分と地域との相互関係に気付いている。</p> <p>④地域の発展は人々の思いが繋がって成り立っていることや、「ものづくり」について理解が深まったことは、他教科と結び付けての探究的な学びの成果であることに気付いている。</p>	<p>①目的をもって取り組むことから課題を見出し、地域の様々な大人から話を聞き、自分の興味関心が高いものを選び、見通しをもって課題を設定している。</p> <p>②必要な情報を得るために情報収集の手段を選択し、必要に応じてICTを活用して情報を蓄積している。</p> <p>③収集した情報を、取捨選択、友達との比較、関連付け、焦点化などをしながら、整理、分析し、解決に向けて考えている。</p> <p>④地域の魅力を発信するため、伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>①身近な地域に関心を持ち、自分のよさに気づき、自分なりに関わり方を考えようとしている。</p> <p>②地域の魅力を発信するために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p>③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考え、積極的に行動しようとしている。</p>

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)子ども主体の学習になるために～総合との出会いを大切に～

総合的な学習の時間という新たな学びに出会う学年であるため、まずは各学級で「総合的な学習の時間って何だろう」というテーマで授業を行った。子どもたちからは、「他の教科の学習とは少し違うと思う。」「いろいろな人やお店と関わることができそう。」「総合は『全部』というイメージだから、学んでいることを全部使って新しいことにチャレンジする時間だと思う。」などの意見が出た。総合に対し、未知ではあるものの、大きな期待を寄せていることが伝わってきた。そこで、まずは子どもが「楽しい！」と感じられるよう、これまでの生活科や図画工作とのつながりを意識し、「折り紙を使ったものづくり」という切り口で、初回の授業を共通実践した。これにより、子ども一人ひとりが総合的な学習の時間を身近な存在に感じることができ、やってみいたいという前向きな姿勢が見られるようになった。

また4月に社会科の学習で地域巡りを行い、その中で桜町小学校の周りには、商店街やものづくりを行う会社があり、自然にも恵まれているということを知った。この「地域での学び」を総合的な学習の時間にも生かしたいという子どもの願いを受け、各学級で材を決めた。自分たちで探究する内容や方法を決めていく話し合いの時間を十分に取ったことで、総合の学習との向き合い方を一人ひとりが理解していく貴重な機会となった。

昨年度の桜町フェスタを経験した子どもたちは「自分たちも地域の人と関わってみたい」という思いが強い。社会科の学習等で校外に出かける機会の多い3年生だからこそ、「地域」を最大の味方に付けることで、子どもたちの「やってみたい」を実現していくことができると期待している。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

各学級で材が決定すると、材そのものについて調べたり、地域の方にアポイントメントをとって必要なものを調達したりするなど探究を始めている。また、実際に竹細工や陶芸の体験教室に参加したり、判子を自作したりするなど、教師が材について楽しみながら理解を深めている。また、子どもの「やってみたい」に対応できるよう、保護者からの情報や、様々な人脈を大切にすることで、教師が地域との関わりを深めているところである。

○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりがもつ

グループでの話し合いや協同作業を行うことが予想される。活動ごとに丁寧に振り返りを行い、自分の思いを可視化できるようにしておくことで、次の活動に入る際に子ども一人ひとりが自分の思いや願いをもち、自分の思いを語るができるようにする。

5 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの子ども同士で目標の相談をしている。 ・目標に向かって作業を分担している。 ・ゲストティーチャー(農家の方、民家園の方)に積極的に質問をしている。 ・他のグループと情報を共有している。 ・材の魅力を、保護者や地域(商店街の方々や保育園の子どもたち)に発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ってみたいものを決定している。 ・ものづくりや魅力の発信に意欲的になっている。 ・魅力の発信に向けて役割を認識し、積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や活動結果から何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から具体的な取り組みを考えている。 ・ゲストティーチャーから聞いた話を適切にまとめている。 ・相手意識や目的意識を明確にして、魅力の発信の仕方などの計画を、具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で自分の役割を見付けている。 ・いろいろな人と関わりながら活動することが、将来に役立つと理解している。 ・周囲からのアドバイスを受け、改善策を考えている。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関わりながら、どんなものづくりができるか考えている。 ・作る物に対して、様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 ・自分たちが作った物の魅力を地域や他学級、他学年に広めるために、何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し試作することで、材(竹・紙・粘土等)の特徴に気づき、よりよい物を作り上げることをめざしている。 ・地域のゲストティーチャーや学校主事から、ものづくりのコツを聞き、自分たちの活動に生かしている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の扱い方や、作る過程について、意見を交わしながら試行錯誤して作っている。 ・作った物の魅力を伝えるための方法を協力して考え、発信ツールを作成している。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・試作の結果をもとに、今後どのように学習を進めていくか考えている。 ・うまくいかなかったことを記録し、どのように改善したいか考えている。 ・ゲストティーチャーや学校主事の話聞いた後、その情報をどのように活用するか考えている。 ・この経験を、次年度どのように生かしていくか考えている。

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照